

平成18年（2006年）3月

シンフォリカルポス属

(*Symphoricarpos* Duham.)

本審査基準は重要な形質を定める最新の告示を反映しておりません。

出願等にあたっては、最新の重要な形質をご確認ください。（以下 HP の植物区分ごとの特性表参照。

→https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hinshu/info/sinsa_kijun_jp.html）

なお、それぞれの重要な形質に対する定義等は変更されております。

対象植物の範囲

スイカズラ科(Caprifoliaceae)のシンフォリカルポス属 (*Symphoricarpos* Duh.) は、中国西部、アメリカ北部、中部の森林、茂み、大草原に自生し約17種がある。国内では *S. albus* S.F.Blake、(和名セッコウボク)種、*S. × doorenbosii* Krussm.種、*S. orbiculatus* Moench種等が流通している。本基準案はこのシンフォリカルポス属を対象とするが、調査種以外の種の出願があった場合は、本基準適用の可否についてあらかじめ十分な検討が必要である。

特性審査基準

(1) 特性審査基準

重要な形質	No.	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
樹姿	1	樹姿	頂花開花期の樹姿	観察 図-1	直立 中間 開張	1 2 3		
	2	株の高さ	地際から最頂部までの高さ	測定 (cm)	低 中 高	3 5 7	ワインレッド	
枝の形状	3	着果枝の長さ	一次分枝基部から株の最頂部までの長さ	測定 (cm) 図-2	短 中 長	3 5 7	ワインレッド	
	4	着果枝の太さ	着果枝の中間部の太さ	測定 (mm)	細 中 太	3 5 7	ワインレッド	
	5	着果分枝数	着果枝から分枝した着果分枝数	測定 (本) 図-2	少 中 多	3 5 7	ホワイトヘッジ	
	6	着果枝の色	着果枝の中間部の色	観察 図-2	灰褐 淡褐 褐 赤褐	1 2 3 4	ワインレッド	
葉の形状	7	葉形	着果枝の葉の形	観察 図-3	披針形 長楕円形 楕円形 卵形 広楕円形 円形	1 2 3 4 5 6	ワインレッド	
	8	葉縁の形	葉縁の形	観察 図-4	全縁 浅い波状 波状	1 2 3	ワインレッド	
	9	葉先端の形	葉の先端の形	観察 図-5	鋭尖形 鋭形 鈍形	1 2 3		
	10	葉の表面の凹凸	葉の表面の凹凸の程度	観察 図-6	弱 中 強	3 5 7		
	11	葉長	葉の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7	ワインレッド	
	12	葉幅	葉の幅	測定 (cm)	狭 中 広	3 5 7	ワインレッド	
	13	葉の色	葉の色	観察	淡緑 緑 濃緑	1 2 3		
	14	葉のアントシアニン着色の程度	葉のアントシアニン着色の程度	観察	無又は極弱 弱 強	1 2 3		
	15	葉の毛の多少	葉の裏面の毛の多少	観察	少 中 多	3 5 7		
花の形状	16	花形	花冠の形	観察 図-7	筒形 漏斗形 鐘形	1 2 3		
	17	花冠の色	花冠外面全体の色	観察	白 淡緑 赤系 赤紫系	1 2 3 4		

重要な形質	No.	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
花の形状	18	花冠の二次色	花冠外面の二次的な色	観察	白 淡緑 赤系 赤紫系	1 2 3 4		
	19	花冠の高さ	花冠の高さ	測定 (mm)	低 中 高	3 5 7		
	20	花冠の幅	花冠の幅	測定 (mm)	狭 中 広	3 5 7		
	21	がくの先端の色	がくの先端の色	観察 図-8	緑 赤紫	1 2		
果実の形状	22	果穂の着生位置	果穂の着生位置	観察	頂生 頂生と腋生	1 2	ワインレッド	
	23	総果穂の長さ	総果穂の長さ（果穂が頂生の場合は除く）	測定 (cm) 図-2	短 中 長	3 5 7	ホワイトヘッジ ワインレッド	
	24	腋生部の果穂数	腋生部の果穂節数	測定 (節) 図-2	少 中 多	3 5 7	ホワイトヘッジ ワインレッド	
	25	頂部果穂の長さ	頂部果穂の長さ	測定 (cm) 図-2	短 中 長	3 5 7	ワインレッド ホワイトヘッジ	
	26	腋生部の果穂の長さ	腋生部の果穂の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7	ホワイトヘッジ	
	27	果実の形	成熟果実の形	観察 図-9	楕円形 円形 横楕円形	1 2 3	ホワイトヘッジ ワインレッド	
	28	果実の縦径	果実の縦方向の長さ	測定 (mm)	短 中 長	3 5 7	ワインレッド ホワイトヘッジ	
	29	果実の色	果実の主な色（果穂の状態で測定）	JHSカラーチャートの色票番号による				
	30	果実の光沢の有無	果実の光沢の有無	観察 図10	無 有	1 9	ワインレッド	
	31	早晩性	供試株数の半分の果実が成熟した時の早晩	観察	早 中 晩	3 5 7	ホワイトヘッジ ワインレッド	

(2) 特性審査基準 (案) 参考図

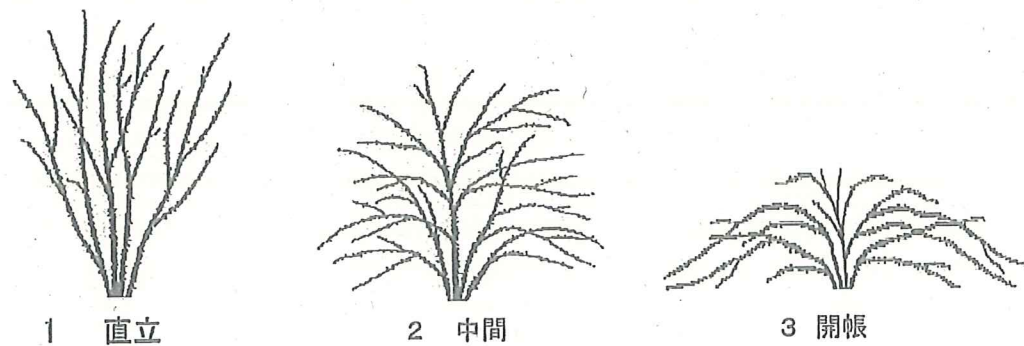


図-1 樹 姿 (形質 1)

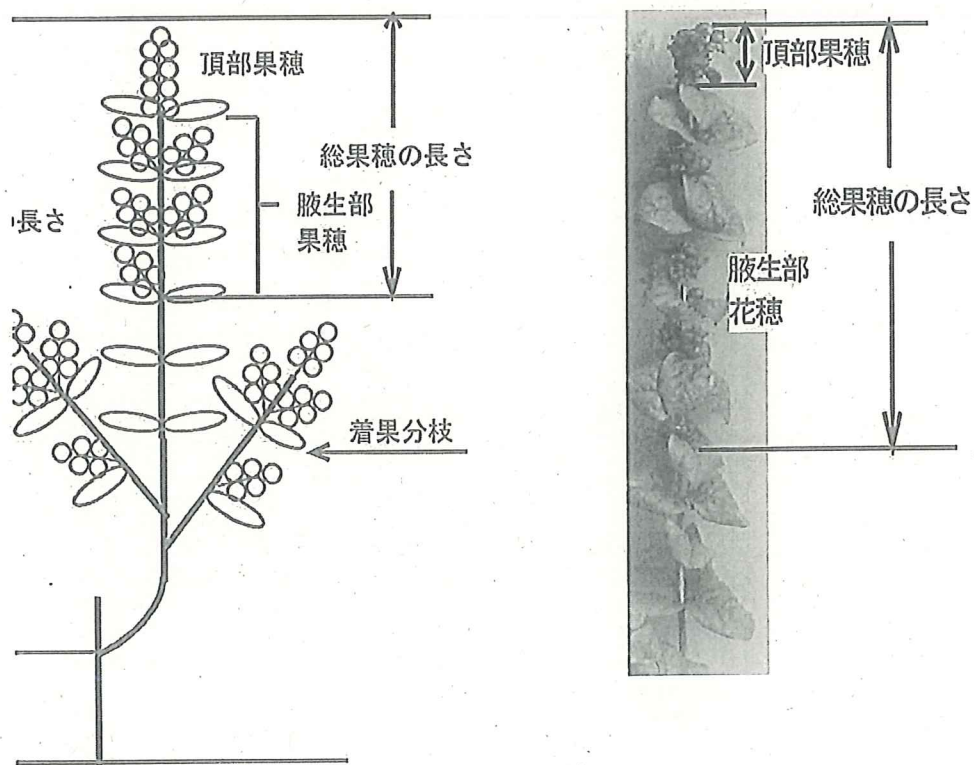


図-2 植物体 (着果枝の長さ、着果分枝数、総果穂の長さ、頂部果穂、腋生部果穂)

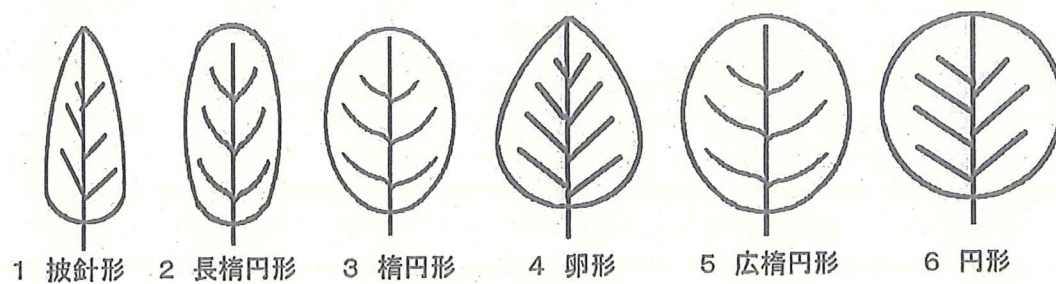


図-3 葉形 (形質 7)

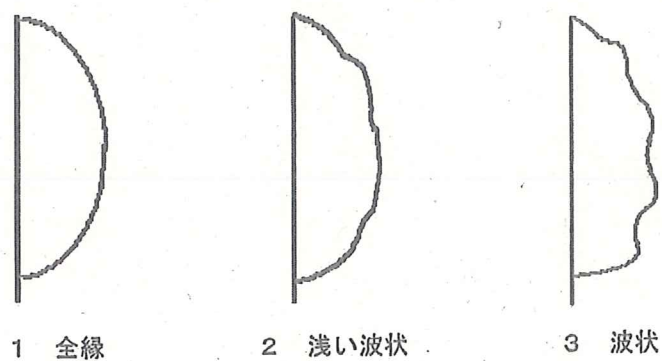


図-4 葉縁の形 (形質 8)



図-5 葉先端の形 (形質 9)



3 弱



5 中

図-6 葉の表面の凹凸 (形質 10)



図-7 花形 (形質 16)

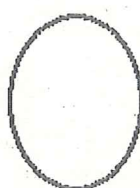


1 緑

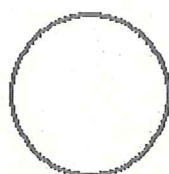


2 赤紫

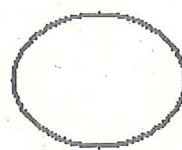
図-8 がくの先端の色 (形質 21)



1 楕円形



2 円形



3 横楕円形

図-9 果実の形 (形質 27)



1 無



9 有

図-10 果実の光沢の有無 (形質 30)

特性検定のための栽培試験方法

(1) 栽培基準

作型	露地栽培
定植	11月(1条植え、株間50cm)
整枝・仕立て	高さを揃え(約10~15cm)台切りする(前年初冬か春萌芽前に実施)
施肥	N、P、K:10kg/10a当たり、堆肥2~3t/10a当たり
栽植距離	1条植え、株間50cm、畝間150cm
受粉樹	4m以内に1株配置する。(品種の異なるもの)
提出種苗	晩秋、2年生株(2月挿し)

(2) 供試個体数 10個体

(3) 調査時期 果実成熟期に行う。花の形質は開花期に行う。 調査は3年生株(2月挿し)を対象に行う